

平城宮跡資料館



平城京の春夏秋冬

ナント！

すてきな!?

ライフ  
平城生活♪

平成29年度 夏のこども展示

2017.7.22 sat - 9.3 sun

奈良時代の  
ゆりがごから  
はかばまで

セレブとサラリーマン

平城京の  
あさからよる



## はじめに

へいじょうきょう すいていじんこう  
平城京の推定人口は5万～10万人。  
とうじ にほんずいいち たいとし  
当時としては、日本随一の大都市だったんだ。

へいじょうきゅう はたら やくにん  
平城宮で働く役人とその家族が多かったけれど、  
きぞく しなはたら  
宮や貴族のやしきなどでの下働きの人々、  
京にものを運んできたり、へいし しょくにん兵士や職人として集められたりして、  
ぜんこくかくち全国各地からやってきた人々、  
京内のお寺のお坊さん・ぼう あま尼さん、それに海を渡ってきた外国の人々など、  
いろいろな人がくらしていた。

このうち、平城宮などではたらく役人は約1万人。

この企画展の主人公、  
“とよなりさま”と“やかまろさん”も役人だ。



へいじょうライフ  
平城生活 はじまり はじまり

とよなりさま  
(54さい)



ザ・セレブ

政治家でもあり、経営者でもあり、別荘までもってる…！  
まさにセレブ中のセレブ！！

しごと

とてもえらいお役人。位は、正二位。右大臣という職にある政治家。

すまい

おじいさん（左京二条二坊・一条二坊）、おじさん（左京二条二坊）、おとうと（左京四条二坊）のお屋敷（邸宅）の近くにあったと想像して、左京三条三坊にあり、広さは4町だったとしておきましょう。ここは、馬に乗って、壬生門まで数分という通勤にとっても便利なところですよ。

また、とよなりさまが紫香樂京から石山寺に寄付した建物が研究されていて、約284㎡（86坪）という大きな建物が復元されています。平城京でも大きな建物をもっていたことでしょう。このほか、難波に別荘をもっていました。

かぞく

3人の奥さんと3男1女の子供がいました。そのほか、おおぜいの事務職員や職人が通ったり住みこんでいたりしました。その数は数百人。

おかね

給料として、1年間に現在のお金で1億2500万円に相当する米や布などを得ていました。また、各地の農場からさまざまな品物が届いたほか、京内に商店を持ち、いろいろな品物を買って、もうけていたようです。



えらい役人の屋敷

ひろい土地に建物がたち並びます。



えらい役人の屋敷から出土した土器

大きなつわがたくさん出土します。



もんじょぼこ  
文書箱

お屋敷のなかの事務所で書かれた書類を入れる箱です。

やかまろさん  
(54さい)



ふつらのサラリーマン

コネもない、お金もない、家もせまい…。  
バイトもこなす、ふつらのサラリーマン

しごと

おんみょうりょう やくしょ つと ひじょうきん やくにん  
陰陽寮という役所に勤める、非常勤の役人。  
くらい しょうそ いじょう しょく ししやう  
位は、少初位上。職は、つかいっぱしりの史生。

すまい

とほ へいじょうきゆう こいち じかん きやう みなみ ちか うきやうはちじやう す  
徒歩で平城宮まで小一時間かかる京の南はしにも近い、右京八条に住んでいま  
した。ここでは、1坪を塀や溝で、いくつもの宅地に区切っていました。  
やかまろさんの宅地の広さは1/32町(約500㎡)。そこには、板葺きや草葺きの  
かんそ たてものすうとう いど さいえん  
簡素な建物数棟、井戸1基がみられ、あき地には菜園がありました。

かぞく

このあたりには1世帯5~10人の家族が住んだと考えられているので、8人家族  
だったとしておきましょう。

おかげ

年2回もらうぬの くわ 月々の食料、国から与えられた田んぼからとれる米など  
を足すと、1年で230万円ぐらいになるかな？ ちょっとたりないので、写経所  
にお経を書くアルバイトに出ています。庭には家庭菜園があり、とれた野菜を  
食事などのたしにしたほか、よぶん いち う  
余分なものを市で売っていました。



ふつらのやくにん いえ  
ふつらの役人の家

こまかくくぎったせまい土地にたくさんの建物と  
いど それに家庭菜園がみられます。



ふつらのやくにん うち  
ふつらの役人の家から出土したもの

にた しょくじ とき  
煮炊きや食事につかう土器と  
さいえん すき  
菜園でつかうスコップ(鋤)がみられます。

しつちょうさんからひとこと

とよなりさまのモデルは、藤原不比等の孫で、藤原武智麻呂の長男、藤原豊成(704-766)。  
やかまろさんのモデルは、木簡にちらりとあらわれる高屋連家麻呂(生没年未詳)。  
くわ そうぞう  
二人とも詳しいことはわからないので、ほとんど想像しました。



平城京は、大路上に囲まれた大きな区画「坊」を、東西3本、南北3本の小路で16の小さな区画「坪」に分けておった。この1坪の広さが1町（15,000㎡）：甲子園球場は13,000㎡）。

あしのように、ぺいぺいの役人の宅地は、徒歩で平城宮まで一時間かかる南の八条や九条などに多かったんだよ。宅地1つの広さは1/16町（約1,000㎡）や1/32町（約500㎡）。

一方、とよなりさまのように、えらい人には、五条より北の平城宮に近いところに、1町以上の広い宅地が与えられることが多かったよ。とよなりさまの弟の宅地は、8町（120,000㎡）という広さだったんじゃよ！堀で囲われた宅地内には、大小の多くの建物が建ち並び、池なんかもあったんだよ。



あんなかんじね。

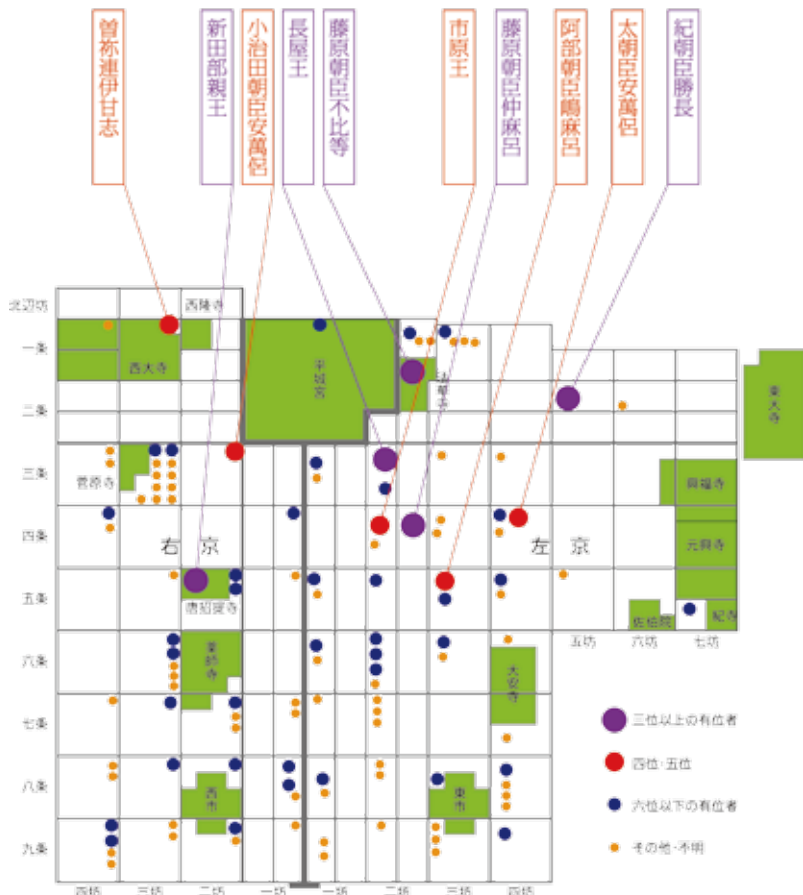


役人の居住地のおおよそ広さと年収

奈良時代の役人は、とてもえらい「正一位」から、あしのような一番下っぱの「少初位」まで30段階に分かれた位をもっていて、給料として、その位ごとに決まった量の布や鋤、鉄などの品々を年二回、月料とよばれる米と塩などの食料を毎月いただいている。それに、農民とおなじく、6才以上の人みんなにあたえられる田んぼ（口分田）をっており、そこからとれる米も収入になっておった。こうしたもののうち、実際につかった分の残りを京内の市で売って、お金にしていたんじゃよ。

六位以上の方は、位に応じた広さの田んぼが特別に与えられ、そこからの米を収入にできたし、もっとえらい、とよなりさまのような三位以上のお役人には、戸が与えられ、その戸が納める税も収入にできたんじゃ。

これらを現在のお金でいくらぐらいになったと思う？奈良文化財研究所が計算したところ、正一位は3億1400万円！少初位のあしは、たった230万円ほど。あしらぺいぺいは、借金やら写経所でのアルバイトなど、大変だったんじゃ。



位による居住地の分布

# お役人コーディネート (朝服バージョン)

# Court uniforms

2

位前後の色



ぎんせいかなぐつきかわおび  
銀製金具付革帯

牛革に漆を塗り、金具を飾り付けた帯。位によって、材質が違っていた。現代のベルト。

はいしよくひん  
佩飾品

地位をあらわすほか、実用的な文房具と魔よけの意味もある。木簡削る刀子は必需品！「刀筆の吏」のいわれ。

しっしやかん  
漆紗冠

絹に漆を塗った帽子。

4

位前後の色



銀製金具付革帯

はかま  
袴

位の高い人は裾のラインがポイント。

6

位前後の色



くろうるしぬ どうせいかなぐつきかわおび  
黒漆塗り銅製金具付革帯

8

位前後の色



黒漆塗り銅製金具付革帯

はかま  
袴

位の低い人は無地。



身分によって着る色がきまっていた。



色によって小物使いを変えるのがポイント。



## 平城京24時間

平城京では、  
一辰刻(2時間)ごとに太鼓、  
一刻(30分)ごとに鐘をならして  
人々に時を知らせしていました。

また、日の出・日の入りなど、  
おひさまの動きをしらす太鼓もならされました。  
このほか、お寺も1日6回の修行の際に鐘をならしていました。

人々は、こうした、鐘や太鼓の音をきいて、  
時間をしり、それをもとにして、1日を過ごしていました。





奈良市役所所蔵平城京復元模型

はなのみやこ“平城京”

# とよなりさまの一日

## 起床

夜明けの三刻前（1時間半前）に起床。朝起きると、昨日の日記をつけます。その後、かるい朝ごはんをとり、朝のしたく。

## 出勤

夜明けを告げる太鼓を聞くと、通勤の準備をはじめ、出発です。馬に乗り、おつきのものと目と鼻の先の壬生門まで。壬生門前で馬を降りて、宮内に徒歩で入ります。朝集院で、服をただし、時間が来るまであいさつやおしゃべりをしながら、待ちます。

## お仕事

第二次大極殿の朝堂院の指定席に各役所の長官や次官が着き、朝堂院南門が開くことをしらす太鼓（第二開門鼓）が響くと、係が呼びに来ます。朝堂院に入ると、おしゃべり禁止。おもむろに朝堂院東第一堂に行き、自分の席に着くと、出勤が確認され、お仕事が始まります。国を動かす、まつりごと。とても重大なお仕事です。各役所から上がってくる報告を聞き、指示を出したり、太政大臣、左大臣などと会議。とても重要なことは、大極殿にいらした天皇に会って、相談します。

## 帰宅

いつもなら、お昼の太鼓を聞いたら、帰宅しますが、この日は東院庭園でお呼ばれ。ちょっと楽しんじゃいました。結局、この日は、申時（午後3時ごろ）帰宅。

## 自宅にて

宅内の正殿で、帰りを待っていた家の事務局長と、とよなり家のやりくりなどを相談。今年の米のできなどの報告もありました。夜は、奥さんたちの住む建物で家族と晚餐。食事後は、琴の音を聞きながら、奥さんと暮を楽しみました。



ことじ  
琴柱

こと えんそう  
琴の演奏に使います。

楽器はふつうの人の家からは出土しません。



とよなりさまのディナー



発掘された、とよなりさまの職場  
(朝堂院東第一堂)



東院庭園でのひととき  
(早川和子さん画)



ええ気分～



家族との夕食  
(早川和子さん画)

# やかまろさんの一日

**起床** 今日は出勤日。夜明けの二刻前（1時間前）には起床して、朝のしたく。

**出勤** 夜明けを告げる太鼓の音を聞くやいなや家を出発。夏至の頃は朝の4時半ごろです。

徒歩で平城宮まで出勤。八条からは、小一時間ぐらいかかりますが、勤務始まりの太鼓までに、届け出している宮門をとおって、宮内に入らないといけません。宮門を通るときに、しっかりと出勤を確認されています。

**お仕事** 遅刻せずに、仕事場の陰陽寮に何とか着きました。ほっとするまもなく、仕事開始の太鼓（第二開門鼓）！なんといっても、下っぱの史生なので、上司が作った木簡をよその役所にもっていったり、備品管理をしたり。なんやかんやで大変です。そんな仕事時間中での楽しみが役所の食堂での朝の給食。味が薄かったりすると、大膳職に苦情を入れます。

**帰宅** 午後の仕事や宿直の時もありますが、今日は、お昼の太鼓を聞いたなら、一目散に家に帰ります。なぜなら、お手伝いさんと売るものをもって、西市に行くからです。そこで屋台を出して、鉄と布、庭でとれた青菜を売り、今度は、そのお金で、奥さんに言われた調味料の未醤や塩、魚の干物を買います。日没の太鼓が鳴ると、市や京内の門がしまってしまうので、さっさとすませます。

**自宅にて** 夕方、家に帰ると、家族で食事です。あしたは休みなので、お酒をちょっと飲みすぎちゃいました。いい気持ちで、食後は、子供たちと土器のすごろくを楽しみました。



やかまろさんちの晩ごはん

くらしい、  
おもしろい、  
とおいし...



やかまろさんの仕事風景  
(早川和子さん画)



味うすっ。  
やかまろキレちゃうよ。



ある日の市  
(早川和子さん画)



すごろく土器



みずどけい ろうこく  
水時計「漏刻」

しつちょうさんからのひとこと  
陰陽寮が時間を測るのに使っていた「漏刻」と  
よばれる水時計。飛鳥時代の漏刻をおいた施設  
が明日香村の水落遺跡で発掘されたんだ。  
それをもとに復元したのが、これだ。



奈良時代、時間は、わしがつとめていた<sup>おんみょうりょう</sup>陰陽寮という役所が漏刻や日時計で測っていたんだよ。

一日 = 十二辰刻 (一辰刻 = 今の2時間)

一辰刻 = 四刻 (一刻 = 30分)、

一刻 = 十分 (一分 = 3分) と決められていたんだ。

辰刻は、時と呼ばれ、子時 (今の午後11時～午前1時) から  
亥時 (午後9時～11時) まで十二支が付けられていたよ。

また、刻については、点<sup>てん</sup>とっていたよ。

「卯二点三分」は  
今の何時何分でしょう？  
わかるかな？



°平城宮跡5層土台と鐘

平城宮・京では、時刻をしらせる鐘や太鼓のほか、日出と宮・京内の門の開門  
を知らせる太鼓 (第一開門鼓: 日出の15～20分前)、大門 (朝堂院南門) の開門と  
始業をしらせる太鼓 (第二開門鼓: 第一開門鼓の約1時間後)、昼 (太陽が真南  
に来るとき) と大門閉門、退庁時間を知らせる太鼓 (退朝鼓)、日没と宮・京内の  
門の閉門をしらせる太鼓 (閉門鼓: 日没の15～20分後) がならされていました。

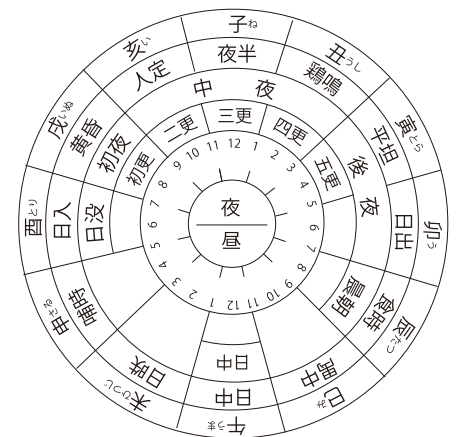
たいがいの役人は、第一開門鼓が出勤の合図となり、第二開門鼓にまでには  
宮内の仕事場に着いていなければならなかったんです。とよなりさまのようなえら  
い役人の仕事はお昼まで。でも、やかまろさんのような下っぱは、交代で午後の  
仕事や夜勤もしなければなりません。

日没の太鼓と日の出の太鼓の間は、京内に設けられた門も閉じられて外出でき  
ませんでした。夜遊びも<sup>ベケ</sup>×。ものを売ったり、買ったりするのに大切な市は、お昼  
の太鼓で門をあけ、日没の太鼓とともに門を閉じました。

このほか、お寺で1日6回つく修行の鐘の音のうち、中夜 (午後10時) の鐘を  
就寝時間<sup>しゅうしん</sup>と感じていました。



当時のカギ



奈良時代の一日

阿部猛1995『万葉びとの生活』より引用

## 平城カレンダー みやこびとの春夏秋冬

奈良時代には、中国の唐の曆とう こよみが使われていました。

それは、月の満ち欠けをもとにする“太陰曆”たいいんれき。

太陽の動きを基準にする現在の曆たいようれき（太陽曆）とは1か月ほどずれています。

この時代、具注曆ぐちゅうれきという今でいうカレンダーもありました。

正月元日などの大切な儀式ぎしきが定められるとともに、

いまのお盆ぼんや正月、バレンタインデーやクリスマスなどのような

月ごとや季節ごとの年中行事があり、

四季の移り変わりを楽しんだことでしょう。



カレンダーをみながらお仕事

（早川和子さん画）

# 春

がんにつ ちやうが

元日の朝賀(正月元日)

あおうまのせち え

白馬節会(正月七日)

とう かのせち え

踏歌節会(正月十四、十五、十六日)

大射(正月中旬)

じやうしのせち え きやくすいのえん

上巳節会(曲水宴)(三月三日)

わか な

若菜つみ



元日の朝賀(一月一日)  
(早川和子さん画)



朝賀に使われた隼人の楯  
(あやがつか はやと たて)



白馬節の馬はこんなかざり馬?(一月七日)



上巳節会(曲水宴)(三月三日)



上巳節会(曲水宴)(三月三日)  
(早川和子さん画)

春は、さまざまな重要な行事が集中します。

1年のはじまりだからでしょうか。

そんななか、野原にいて、若菜をつむのは、ほっとするひと時です。

若菜は粥に入れていただきます。

七草がゆにつながります。

# 夏

たんごのせちえ  
端午節会(五月五日)

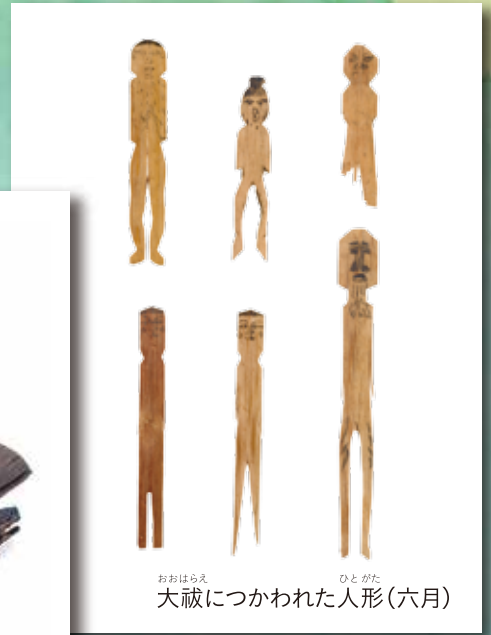
おおはらえ  
大祓(六月)

たう  
田植え(五月)

ひ おうぎ てんのう か し  
夏に檜扇を天皇が下賜



天皇からの夏のおくりもの  
ひ おうぎ  
檜扇



おおはらえ  
大祓につかわれた人形(六月)

五月五日の端午節会には  
しょうぶ けんじょう  
菖蒲の献上、やぶさめ、けいば  
競馬、サーカス、がっき えんそう  
楽器演奏がおこなわれました。

また、五月には、田植えのための休暇がありました。

六月には、半年に一度の大祓。  
ひら役人から皇太子まで、役人一同、

みぶもんまえ  
壬生門前あたりで人形を流して、  
ひとがた  
身と心だけでなく、京内全体を清めます。

夏らしい行事として、平安時代には、  
へいあんじだい  
「衛府が作って納めた檜扇を天皇が群臣に配る」というすずやかな儀式がありました。

平城宮東方官衛地区では、  
とうほうかんが ちく  
衛府に関わるゴミ穴から14個体もの檜扇が出土し、  
奈良時代にも同様な儀式があったことが推測されています。

そして、やっぱり夏バテにはうなぎですね。



しょうぶ

# 秋

たなばたのせちえ  
七夕節会(七月七日・八日)

うらぼんえ  
盂蘭盆会(七月十三、十四、十五日)

いねか  
稲刈り(八月)



すまいのつかさ ぼくしよどき  
「相撲司」墨書土器(七月七日)



いね きゅうか  
稲刈り休暇(八月)

たなばた  
七夕の日には、七夕の詩を作<sup>し</sup>って詠<sup>よ</sup>むといった  
ゆうが  
優雅なならわしがありました、  
なんと、この日には相撲もおこなわれました！  
ぜんこく ちからじまん  
全国から力自慢のお相撲さんが集<sup>あつ</sup>められました。  
そして、奈良時代にもお盆はあり、  
ナスやウリなどの野菜が先祖の霊にささげられました。  
いねか きゅうか  
また、稲刈りのため、八月に休暇がありました。

く ちゅう れき  
具注暦  
とは？



おんみよりよう  
具注暦は、陰陽寮が毎年つくるカレンダーです。上下2巻の巻物<sup>まきもの</sup>で1年分でした。  
かんとう きつぎょう  
巻頭にその年の一年の長さや、月の大小のほかに、歳<sup>とし</sup>の吉凶が書かれているほか、各月  
には日<sup>ひ</sup>の干支、二十八宿、曜日、二十四節気、七十二候、日の出入り時刻、その日の吉凶  
が記されています。書き写した巻物が各地に配られたほか、これを板に書き写して掲<sup>けいじ</sup>示  
する場<sup>ばあい</sup>合もあつたようです。



# 冬

にいなめさい とよあかりのせち え  
新嘗祭・豊明節会(十一月)

みたましづめ  
鎮魂祭(十一月)

おおほらえ  
大祓(十二月)

ついな おおみそか  
追儺(十二月大晦日)



おおほらえ  
年末の大祓(十二月)



ことがた ほこがた  
鎮魂祭につかった琴形と矛形(十一月)

冬も行事が多いです。

一年の終わりであり、太陽の力が落ちる季節とみられていたからでしょう。

にいなめさい しゅうかく かんしゃ きんろうかんしゃ  
新嘗祭は収穫を感謝するおまつりで勤労感謝の日につながり、

ついな おに  
追儺は、鬼を追い出す行事で、今の節分にあたります。


じよや かね  
一方、まだ、除夜の鐘はなかったようです。



おおみそかは“鬼は外!”



『国史大系第二十八卷 政事要略』より引用



ゆりかごからお墓<sup>はか</sup>まで  
—みやこびとの一生<sup>いっしょう</sup>—

とよなりさまや、やかまろさんは、どんな一生をおくったのでしょうか？

これが意外<sup>いがい</sup>とわかりません。  
想像<sup>そうぞうりょく</sup>力をたくましくして復元<sup>ふくげん</sup>してみました。



しごとどうぐ  
役人の仕事道具

# とよなりさまの一生

ふじわらきょう  
藤原京で生まれました。

7才 家族で藤原京から平城京へ引っ越し。

16才 大学に入学。

20才 **正六位下**で就職・お役所デビュー。このころ第1夫人と結婚。

21才 従五位下

長男誕生

24才 次男誕生

26才 三男誕生 この前に第2夫人と結婚。

29才 従五位上

34才 正五位上

父と叔父さん3人が<sup>でんせんびょう</sup>伝染病で病死。家を継ぐ。

<sup>じゅし いげ さんぎ ひょうぶ きょう</sup>  
従四位下 参議、兵部卿

36才 正四位下

40才 従三位 <sup>ちゅうなごん</sup>中納言

44才 長女誕生 この前に第3夫人と結婚。

45才 従二位、<sup>だいなごん</sup>大納言

46才 右大臣

54才 正二位

61才 **従一位**

62才 病気でなくなりました。

京北方の<sup>きゅうりょう</sup>丘陵に葬られました。

みどりのふく  
(ええとこのおぼっちゃま)



銀のかざりがついたベルト(皮帯)  
えらい役人のものです。

むらさきのふく  
(むっちゃセレブ)



おとうさんが  
セレブだと…



おん い  
陰位の制

おすこも  
セレブ…!!

とよなりくん20さい



わたしは、お役所勤めをする前に<sup>だいがくりょう</sup>大学寮に入りました。  
ここは、<sup>きぞく</sup>貴族の子どもたちが学ぶ学校です。孔子様の教え  
である<sup>じゅきょう せいじ</sup>儒教を政治に生かす勉強をしました。本当は入らな  
くてもよかったんですけども、父が<sup>がくちょう だいがくのかみ</sup>学長(大学頭)をした  
こともあり、入るようにおすすめられました。20才には<sup>うどねり</sup>宮中  
で天皇に仕える内舍人となり、21才には、すでに、貴族と  
される<sup>びょうし しゅっせ</sup>五位でした。あとはとんとん拍子に出世しました。  
こうした貴族がとくする<sup>おんい せい</sup>制度を陰位の制といいます。

# やかまろさんの一生

お父さんのさとの河内国古市郡(今の大阪府羽曳野市)で生まれました。

7才 平城遷都にともない、お父さんに呼ばれ、お母さんと平城京にお引越。でも、大きくなるまで、平城京と田舎を行ったり来たりしてました。

29才 無位から役人人生をスタート。  
このころ結婚。のちに3人ほど子供もできました。

45才 なかなか芽が出ず、やっと少初位下。正式の位につきました。

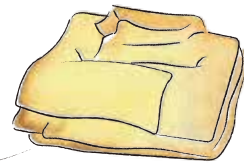
51才 コツがつかめて、少初位上に昇級。

57才 大初位下に昇級できましたが、長年の無理がたたたり、病気がちに。

60才 なくなりました。

お墓は????

きいろのふく  
(コネなし一般サラリーマン)



役人の机

うすいあおいろのふく  
(やっと昇級した一般サラリーマン)



ひとがた  
人形

病気の時などにも用いました。



銅のかざりがついたベルト(皮帯)  
ふつうの役人のものです。



すっかり  
年をとってしまった...

25才のときに役所勤めをはじめましたが、わしのような下っぱ役人のおすこは、なかなかえらくなれないんじや。昇進のチャンスは、6~8年に1回。しごとの成績をみられ、その期間、毎年連続して、中以上を取らなければ、昇進できないしくみじや。少初位上になったのは、51才の時。いやはや。



きんむひょうてい もっかん  
勤務評定の木簡

モデルとなった高屋連家麻呂の成績表



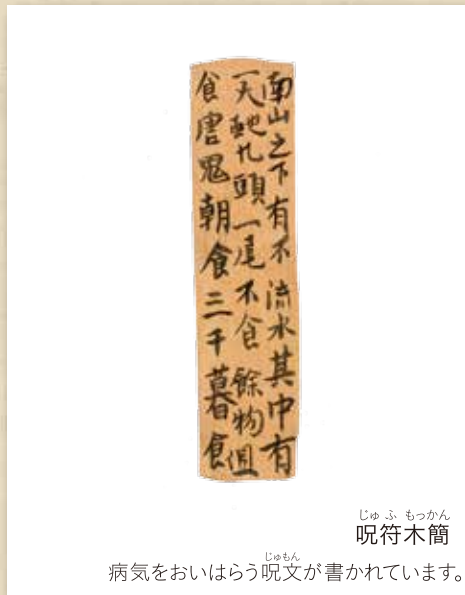
えなつぽ  
胎衣壺

中からみつかった  
ふで すみ とうす  
刀子(ナイフ)

古くから、こどもが生まれると、<sup>えなつぽ</sup>胎衣壺を家の入口などに埋める習慣がありました。

古代の胎衣壺は、壺に胎衣（<sup>あとざん</sup>後産・<sup>たいばん</sup>胎盤：おかあさんにきいてみて）と、男の子であれば、役人のシンボルである刀子（<sup>もつかん</sup>木簡を削るナイフ）・筆・墨、女の子のときは、裁縫道具の針や糸を、<sup>かみさま</sup>神様への捧げものとされる<sup>どうせん</sup>銅銭と納めました。

生まれた子どもがすくすく成長し、役人として立身出世することや、お裁縫がじょうずになることを願ったものとされています。いなかで生まれたやかまろさんはともかく、とよなりさまが生まれた時、そして、二人にこどもが生まれたときにも胎衣壺が埋められたことでしょう。



じゆふ もつかん  
呪符木簡

病気を<sup>じゆもん</sup>おいはらう呪文が書かれています。

### しつちょうさんからのひとこと

奈良時代には、男子は15才（女子は13才）以上で結婚できました。  
<sup>へいさんじゆみやう</sup>平均寿命は、30~35才と考えられています。ただ、<sup>こせき</sup>戸籍などをみると、<sup>とじよ</sup>けっこう、お年寄りもみられます。おさない子どもの<sup>しほりつ</sup>死亡率が高かったのです。奈良時代には、何回か<sup>でんせんびやう</sup>伝染病がはやって、たくさんの方がなくなりました。とよなりさまのおとうさんやおじさんが同時に亡くなったのも伝染病が原因です。

病気になった時、漢方薬や薬酒などもありましたが、よくやられたのはおまじない。効いたかどうかはわかりません。



平城京内には、お墓はつくれませんでしたので、<sup>きやうがい</sup>京外の北、東、西の<sup>きやうりやう</sup>丘陵にお墓が造られています。

火葬した骨を土器などに納めて埋めたものがよくみられます。貴族などは墓誌も一緒に埋めている例があります。ただ、お墓をつくるのは、とよなりさまのような貴族が多いようです。火葬するのにも<sup>ひやう</sup>けっこう費用がかかりますから。一方、やかまろさんなどのえらくない人々がどうしていたかは、実はよくわかっていません。



へいあんじ だいしやうとう  
平安時代初頭のえらい役人のお墓



えらい役人(太安万侶)の墓誌  
名前や住所などが書かれています。



えらい役人のお墓は京のまわりの岡や山につくられました。

## おわりに

はつくちようさ しよもつ けんきゆう  
発掘調査や書物の研究をもとに、  
とよなりさま、やかまろさんのいちにち いちねん いっしょう  
とよなりさま、やかまろさんの一日、一年、一生をみてきました。

はなのみやこ平城京の生活は、どうだったでしょうか？

「へえー、こんなんだったのか」とか、  
「いまの私たちの生活とよく似ているところ、ぜんぜんちがうところがあったな」とか、  
はたまた、「まだまだ分からないことも多いんだな」という感想もあることでしょう。

いろいろ感じてもらえれば、今回の展覧会は大成功です。

平成29年度 平城宮跡資料館 夏のこども展示

『ナント! すてきな!? 平城生活♪』

発行日 2017年7月22日

発行 独立行政法人 国立文化財機構

奈良文化財研究所

〒630-8577 奈良市佐紀町247-1(仮設庁舎)

<http://www.nabunken.go.jp/heiyo/museum/>

企画編集 奈良文化財研究所 企画調整部 展示企画室

デザイン・イラスト 廣瀬智子

印刷 能登印刷株式会社